

(様式)

第2次宮古島市観光振興基本計画（素案）に関する意見募集結果について

1. 意見件数 : 3件
2. 考え方 : 頂いたご意見に関する考え方は以下の通りです。

	意見箇所	意見内容
1	P26、P31	<p>観光入客数目標200万人とされている中で、P.26(2)1に「観光振興を島の環境を破壊するものとしてではなく、島の環境を守り、世界レベルのエコアイランド形成に結びつく手段として位置づける」、「宮古島の誇り、島民の祖先が繋いできた島の自然や文化を守り、次の世代に繋いでいく有効な手段として観光振興を位置づける」とされています。</p> <p>実際に観光入域客数が200万人に到達した際に、島の環境を保つことは可能なのでしょうか。一度失われた自然環境は、簡単には戻せず、仮にそうなれば、観光も持続しないことから、様々な指標（例えば、上下水道、廃棄物、自然環境等）で受入可能数を調査・把握する必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>&lt;回答&gt;</p> <p>ご指摘のとおり、急激な観光客の増加は、様々な弊害をもたらす可能性があります。対策としましては、P50「5-1. 推進体制」に記載しております「宮古島市観光推進協議会（仮称）」を2019年度に立ち上げ、官民連携した具体的な対応を検討いたします。指標に関しましても、協議会の場で精査して調査項目を検討し、環境・住民に配慮した対策を検討してまいります。</p> <p>また、エコアイランド宮古島推進本部で検討している5つの指標（①地下水質・窒素濃度、②ごみ排出量、③エネルギー自給率、④サンゴ礁被度、⑤固有種保全）の2030年、2050年の目標数値と整合性を持った内容とするため、担当部局とも連携を図り、環境保護に取り組みたいと思います。</p>
2	P27	<p>「2-2 観光振興の方向性」での重要なポイントが示されておりますが、そのなかで「市民と観光客の満足度の向上」を目指すとしております。この「観光客」とは何を指すのかが明確</p>

		<p>ではありません。</p> <p>新たな客層の一例として富裕層を設定し、サービスの充実をあげていますが、この9年たらずで宮古島の観光客の国籍、目的滞在スタイル、年齢層は多様化しており、持続可能な観光振興にはこれらのターゲットの想定が必要ではないでしょうか。特に問題としたいのは、障がい者・高齢者・乳幼児同行旅行者・妊婦・持病のある旅行者などの要支援者に対する配慮です。</p> <p>サービスコンテンツの拡充、多言語対応などは示されていますが要支援者への対応が不足しているのではないかと思います。</p> <p>観光庁が進めるユニバーサルツーリズムの推進を明言してはいかがでしょうか。</p> <p>&lt;回答&gt;</p> <p>本計画（P41）にも記載しておりますが、今後は観光客が多様化していくことが予想されるため、様々な対応が必要になります。持続可能な観光地を目指すために多様な観光メニュー、交通手段などを整備し、観光客の満足度を高め、リピーターを増やす必要があります。また環境・住民にも配慮が必要になります。ご指摘の「障がい者・高齢者・乳幼児同行旅行者・妊婦・持病のある旅行者などの要支援者に対する配慮」ですが、これらは観光客のみならず、住民に対しても必要になります。要支援者に対する施設整備は、関係機関・部署とも連携し、対応を検討いたします。</p>
3	P31	<p>観光客増加に対するリスクアセスメントの必要性について。2028年度入域観光客数200万人目標までの道すがらに起こりうるリスクに対応しておく必要があると思います。私自身、年間200万人の観光客が上陸してくる姿が想像を超えていて、市民の暮らしがどうなってしまうのかという不安があります。</p> <p>&lt;回答&gt;</p> <p>目標値の入域観光客数200万人は、今後の下地島空港開港およびクルーズ船専用バース供用開始を踏まえた、予測数値になります。急増する観光客を受入れるため、本計画を指針にして</p>

		<p>対応していきます。</p> <p>そのため、P50「5-1. 推進体制」に記載しております「宮古島市観光推進協議会（仮称）」を2019年度に立ち上げ、観光客増に伴うリスクの洗い出し等を行い、官民連携して具体的な対応を検討してまいります。</p>
4	P. 33	<p>「千年先の、未来へ。」と取組み内容とがマッチングしていないのではないかと思います。千年先は想像もできませんし、エコという概念があり続けるかどうかも分かりません。市民と観光客との意見交換やセミナーから拾い上げる取組みは、千年先よりは手の届く近未来を目標としたほうが適切だと思われますがいかがでしょうか。</p> <p>&lt;回答&gt;</p> <p>「千年先の、未来へ。」という文言は、市としての基本的な姿勢を内外にアピールするために平成30年度の「エコアイランド宮古島宣言2.0」で打ち出した標語です。本市の観光振興においても、エコアイランドの推進と同様、持続可能なことが必要不可欠です。自然環境、生活環境を守りながら、持続可能な観光振興を推進するとの意味合いで「エコアイランド」「千年先の、未来へ。」の文言を本計画でも使用いたしました。ご指摘の「市民と観光客との意見交換やセミナー」に関しましては、当然ながら計画期間である2019年度～2028年度の施策になります。P51に事業展開を記載しておりますが、前期（1～3年）が重点的に取組む期間になります。</p>
5	P33	<p>"「千年先の、未来へ。」世界レベルのエコアイランド形成に向けた取組み"とありますが、英語でのメッセージの文献はありますか？あればおしえてください。あるとしても日本語よりもっと目立たせるべきだったり、WEB ページでの拡充も図ってほしいと思います。日本、とりわけ沖縄県はメッセージ性、いわゆる外部へ打ち出す力が弱い印象をずっと抱いています。日本人はもともと英語が苦手だと外国から揶揄されていますが、世界基準を目指すのであれば、まずは英語での発信を最低レベルに位置付けるべきではないでしょうか。</p>

		<p>&lt;回答&gt;</p> <p>「第2次宮古島市観光振興基本計画」に関しましては、現在英語版作成の予定はございません。</p> <p>エコアイランドの推進に関しましては、海外から来島される観光客の方にも情報を伝えることを目的として、エコアイランド宮古島推進計画の検討委員会においても同様の意見を頂いており、今後、対策について検討していくところです。</p> <p>なお、「世界レベルのエコアイランド形成に向けた取り組み」としては、そうした情報発信に足る取組み展開を今後進めていくこととして記載しております。</p>
6	P35	<p>ラムサール条約登録湿地保護と観光や催事の開催について、どのように考えているか。</p> <p>&lt;回答&gt;</p> <p>与那覇湾で開催される地域行事については、地域の伝統行事と観光を融和させる取組みであり、湿地の環境・生態系が損なわれないように万全を期したいと考えております。</p>
7	P45	<p>ユネスコ無形文化遺産に登録されたパーントゥなど祭祀の保護と観光との関係について、どのように考えているか。</p> <p>&lt;回答&gt;</p> <p>P45に記載のとおり、観光客が地元の伝統を尊重しつつ見学できるよう、見学のルールや行事の意義を周知する必要があります。本計画では観光サイトでの情報発信を明記しており、地域の祭祀と観光との調和が図られるようにしたいと考えております。</p>
8	P46	<p>「市民と観光客双方が便利になる仕組みづくり」においては、コミュニティバスの運行が示され、住民アンケート結果が反映された内容だとは思いますが、二次交通の整備に関しては違う視点からのアプローチが必要ではないでしょうか。</p> <p>○搭乗者アンケート結果にあるように、島内での利用交通手段は9割近くがレンタカーです。</p> <p>○一方、内閣府の「平成28年度高齢化の状況及び高齢化対策の</p>

		<p>実施状況」によれば、全国の高齢化率は2016年の27.3%から、目標年次に近い2030年には31.2%と推計されており、旅行者の高齢化がさらに進むことは容易に予想されます。</p> <p>○すでに国内では、高齢者の自動車運転免許自主返上の動きがあり、種々の優遇策も導入されております。</p> <p>○また、大都市における若者の運転免許保有離れも取りざたされており、自動車を運転できない観光客の増加が予想されま</p> <p>す。</p> <p>○これらを背景として、このままレンタカーのみに頼る島内の脆弱な移動手段では観光地としての魅力を生かすことができず、目標達成には困難が予想されます。</p> <p>●そこで、前述した要支援観光客、自動車運転免許非保有者や下地島空港を経由して増加が予想されるインバウンドをターゲットする移動手段についての検討が急がれると思っておりますがいかがでしょうか。</p> <p>その際、利用すること自体がアクティビティとなる魅力ある交通手段となることが肝要かと申し添えます。</p> <p>&lt;回答&gt;</p> <p>ご指摘の件につきましては、P46「4)市民と観光客双方が便利になる仕組みづくり」のコミュニティバスに関する「主に市民が利用する」という文言を「市民と観光客が共同で利用できる」に修正したいと思っております。二次交通の具体的な在り方につきましては、P50「5-1.推進体制」に記載しております「宮古島市観光推進協議会（仮称）」を2019年度に立ち上げ、官民連携した具体的な対応を検討いたします。前述の協議会においては、二次交通・観光インフラ・環境保全など、観光に関する諸問題に対する課題抽出と対応、計画の進捗管理を行う予定です。</p>
9	その他	<p>自動運転導入を二次交通やタクシー不足、運転手不足に対応するツールとして利用することへの対応もしくは行政の考え方について。</p> <p>&lt;回答&gt;</p> <p>自動運転の導入は、現在、開発中であり、まだ広く普及して</p>

		<p>おりませんが、有効なツールのひとつであると考えております。他地域の状況も見ながら、交通事業者と連携して対応を検討いたします。</p>
--	--	---